

一般社団法人日本歯科医学会連合
国際活動委員会フォーラム2023
抄録集

翔(と)びたて! ニューノーマル時代の海外留学
～最新の取り組みと未来への展望～

オンライン (ライブ) およびオンデマンド配信
令和6 (2024) 年2月21日 (水) 18:00-20:00

事務局 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-2-12 第三東郷パークビル 4F
一般社団法人 日本歯科医学会連合
Fax: 03-3263-7761 E-mail: jimukyoku@nsigr.or.jp

翔(と)びたて! ニューノーマル時代の海外留学 ～最新の取り組みと未来への展望～

オンライン(ライブ)およびオンデマンド配信

開催日時: 令和6 (2024) 年2月21日(水)18:00-20:00

【タイムテーブル】

座長 柳井智恵 (国際活動委員会 委員長)

18:00 開会

開会の辞と趣旨説明 柳井智恵 (国際活動委員会 委員長)

挨拶 住友雅人 (日本歯科医学会連合 理事長)

18:10 第1部 基調講演

演題 私立医系総合大学における国際交流活動の現状と歯学生への期待

講師 宮崎 隆 (日本歯科医学会連合 副理事長, 昭和大学国際交流センター長)

18:50 第2部 各大学の最新の取り組みに関するご紹介

演題 海外留学の現状と展望

講師 新谷明一 (日本歯科大学生命歯学部歯科理工学講座 教授)

演題 大阪歯科大学における国際交流の変遷

講師 益野一哉 (大阪歯科大学歯学部歯科医学教育開発センター 教授)

19:40 第3部 総合討論

講師 宮崎 隆, 新谷明一, 益野一哉

コーディネーター 吉川一志, 峯 篤史, 保坂啓一

19:55 閉会の辞 保坂啓一 (国際活動委員会 副委員長)

私立医系総合大学における国際交流活動の現状と歯学生への期待

宮崎 隆 (みやざき たかし)

日本歯科医学会連合副理事長

昭和大学国際交流センター長

昭和大学副学長



抄録

社会や経済活動を始め、あらゆる分野がグローバル化される中で、医療現場や大学における教育研究もグローバル化に無縁ではない。

本学においても、研究の国際化が早くから進められ、多くの歯学部関係者が国際学会で研究成果を発表し、また海外の研究機関に留学して研究に従事してきた。しかし、近年、歯学部教員の研究留学が非常に減っている。この原因として教員の常勤ポストが少ないことや、診療や教育の比重が大きく時間的余裕がないことが挙げられるが、ネット環境を含めて研究活動のさらなる国際化を進める必要がある。

本学では、「医療を通じた国際社会への貢献に関心のある人」をアドミッションポリシーの一つに挙げており、語学研修プログラムや専門科目に関する選択実習へ参加する学部学生が増えている。また、海外からの学部学生の短期留学（週単位、月単位）の受入れを積極的に行っている。

学生の国際交流には、文化交流、ボランティア活動、研究体験等も含まれるが、本学では個人レベルでのクリニカルクラークシップを推進している。歯学部でも海外協定校における臨床実習を単位認定している。これをさらに推進するためには、カリキュラムの柔軟性や、医療英語研修の充実が課題である。また、世界の医療現場を体験するうえで、我が国の医療制度の理解も必須である。

学部学生時代から国際交流の体験を積むことが、将来の国際的視野を持った医療人の育成に必須であると考えている。

略歴

学歴

- 1978年 東京医科歯科大学歯学部卒業
- 1984年 東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了

職歴

- 1991年 昭和大学歯学部教授（歯科理工学講座）
- 2003年 昭和大学歯学部長
- 2006年 一般社団法人 日本歯科理工学会 会長
- 2008年 歯科チタン学会 会長
- 2010年 歯科CAD/CAM学会（現 一般社団法人 日本デジタル歯科学会）初代会長
- 2014年 一般社団法人 日本歯学系学会協議会 理事長

2015年～ 昭和大学国際交流センター長
2016年～ 昭和大学副学長
2017年 日本学術会議 連携委員
2018年 公益社団法人 日本口腔インプラント学会 理事長
2018年 一般社団法人 国際歯科学士会日本部会 会長
2019年～ 昭和大学特任教授
2023年～ 一般社団法人 日本歯科医学会連合 副理事長

海外留学の現状と展望

新谷 明一 (しんや あきかず)

日本歯科大学生命歯学部歯科理工学講座 教授

香港大学牙医学院牙科物質学 客員教授

フィンランド, トゥルク大学補綴 生体材料学講座 研究員



抄録

近年、日本の歯科医学は急速に進展しており、日本から世界に新しい情報を発信する機会も多くなってきました。そのため、今まで以上に国際的な連携と情報の交流がますます不可欠となっています。日本歯科大学における海外留学には教員を対象にしたものと、学生を対象にした2種類に分けることができます。さらに、教員の海外留学では、それぞれの講座に所属した後、研究室の方針に則り個別対応にて行う海外留学と、大学院修了後に合同講座となる生命歯科学講座に移動し、そこでの5年間の助教任期中に義務付けられた2年間の海外留学とがあります。どちらの海外留学も留学にかかわる経費は大学からの支給となり、帰国までに1編以上の原著論文を国際英文IF雑誌に受理されていることが条件となります。学生の海外留学は、姉妹校である4つの大学（ブリティッシュコロンビア大学、マンチェスター大学、中山医学大学、四川大学華西口腔医学院）との交換留学が行われており、どの大学ともそれぞれに1～3名の学生をお互いに送り出しています。対象学年は臨床実習を行っている5年生となり、どちらも2週間程度の滞在期間となっております。このように、日本歯科大学では学生と教員とに対して様々な海外留学の機会を支援しており、学際的な視点や国際的な経験を通じて、グローバルな視点を持った、質の高い歯科医師、歯科医学者による歯科医療が提供されることを期待しています。

略歴

学歴

- 1999年 日本歯科大学歯学部卒業
- 2003年 日本歯科大学大学院歯学研究科臨床系修了

職歴

- 2006年 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座 助手
- 2006年 フィンランド, トゥルク大学歯学部留学
- 2009年 香港大学牙医学院牙科物質学 客員准教授
- 2010年 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座 講師
- 2015年 日本歯科大学生命歯学部歯科補綴学第2講座 准教授
- 2019年～ 日本歯科大学生命歯学部歯科理工学講座 教授
- 2023年～ 日本歯科大学生命歯学部学生部 部長

大阪歯科大学における国際交流の変遷

益野 一哉（ますの かずや）

大阪歯科大学歯学部歯科医学教育開発センター 教授



抄録

大阪歯科大学は現在、海外の17大学と提携を結んでいます。コロナ以前には1996年から2020年までに約200名が学生短期留学プログラムに参加し、100名ほどの学生が海外から大阪歯科大学を訪問しました。しかしコロナ禍ではこれらの交流が全世界的に完全にストップしました。2023年度から、急速に海外交流が再開しはじめ大阪歯科大学でも2024年3月からいよいよ留学プログラムが再開されます。ただしコロナで各国の制度が変更になりその対応に追われています。学生達の留学に対する熱意はコロナ前よりもむしろ高まっているように感じています。

またアジアの歯科医学教育学会に参加するとアジアの学生達のバイタリティには驚かされます。日本の平均的な若者は現在の生活に概ね困っているわけでもなく、海外でチャレンジしようとする希望は弱いと思われます。それは他国の歯科医療を自分の目で見て感じていないからではないでしょうか？一昔前の発展途上国といわれた国々も急速なデジタル化に伴い医療技術でも最先端の技術を取得できるようになりました。その様な現状の中、日本の歯科医学会が次世代の若者をどう育てればよいのか考えたいと思います。

略歴

学歴

- 1992年 大阪歯科大学卒業
- 1992年 Harvard University, Master of Medical Science課程および臨床研修医コース

職歴

- 1993年 Forsyth Dental Research Center 客員研究員
- 1996年 大阪歯科大学口腔病理学講座助手
- 2009年 大阪歯科大学口腔病理学講座博士（歯学）学位受領
- 2011年 The Royal College of Surgeons of England（英国王立外科学会）歯科卒後研修プログラム（King's College London留学）
- 2014年 大阪歯科大学国際交流部委員
- 2016年～ 日本歯科医学教育学会教育国際化推進委員
- 2020年～ 大阪歯科大学歯科医学教育開発センター 主任教授
- 2021年 日本歯科医学教育学会歯学教育モデル・コア・カリキュラム評価ワーキンググループ（英訳）